

R8現場の声をカタチに！知事のゲンバ・キャラバン（平鹿地域）

開催概要



1 開催概要

- 日 時 令和8年9月27日（日）10:00～11:30
- 訪問先 社会福祉法人 大森保育園（横手市）
- 会 場 大森保育園（横手市）
- 参加者

NO.	名前	備考
1	津川 美長	社会福祉法人大森保育園 理事長
2	稲葉 盛栄	大森保育園長
3	赤川 理亜	川西保育園長
4	島田 亜紀子	大森保育園 主任
5	葛岡 直子	大森保育園 副主任
6	佐藤 和美	川西保育園 副主任
7	佐藤 勇蔵	学童おもり 総括指導員
8	佐々木 信子	子育て支援センター「たんぽぽ」 職員
9	佐藤 純子	川西保育園保護者会 副会長

- 実施内容
 - （1）現場視察「園行事を楽しむ園児の動画視聴」
 - （2）意見交換開会挨拶（知事）
 - （3）団体の取組発表（大森保育園長）
 - （4）意見交換

2 開会挨拶（知事）

本日は訪問の機会をいただき感謝する。

大森町も県内の各地域と同様に少子化が非常に早いスピードで進んでいる。

県内25市町村の皆様それぞれの「心のふるさと」である旧町村をできる限り守っていきたいと考えて

いる。そのためには、そこで生まれ育った方が次の世代につないでいくことが不可欠であり、その基盤となる保育園や小学校、中学校を維持していきたいと考えている。

本日は保育現場のお話を伺う機会であるが、地域にお住まいの保護者の皆様も含め、テーマを限定することなく「こうなれば、より持続可能な地域になっていくのではないか」という観点から幅広いご意見を伺いたい。

3 団体の取組発表

大森保育園の稲葉園長より、大森保育園の取組について発表。

(1) 保育の基本姿勢と理念

① 大切にしている二つの柱

- こどもたちの元気な今の姿を大切にしながら、将来に向けて積極的な気持ちをもつことや協調性、小学校進学に向けた「学びに向かう姿勢」の発達を促進している。
- 保護者の皆様と保育士が同伴者としての意識をもち、工夫を重ねて保育を行っている。

② 保育理念・目標

- 園庭にある大きなイチヨウの樹のように、力強く伸び伸びと育つことを願い、優しさ大きな包容力をもって教育・保育を一体的に展開し、こどもにとっての最善の利益を追求している。
- 隣接する寺の教えを通じ、一人ひとりの個性を認め、共に成長できる場を目指している。

(2) こどもの主体性を育む環境と体験活動

① 主体性を育む保育環境

- 乳幼児期における主体的な関わりを重視し、環境を通じた保育を基本としている。広い園庭で走り回ったり、砂遊びや水遊びを自由に楽しんだりしている。

② 多様な体験プログラム

- プール教室では、「水の中でなぜ人は浮くのか」といった問いや探究心を育てている。
- クロスカントリースキーでは、田んぼを利用し、「転ばないためにはどうすればよいか」をテーマに挑戦している。
- お泊り保育では、七日市公園や保呂羽山等での探検を通じ、リーダーシップやグループの結束を育てている。

(3) 今後の展望

少子化が進む中であっても、こどもにとって楽しく夢のある子育てを目指し、全職員が一丸となって保育に当たってまいりたいと考えている。

4 意見交換

○ 知事

豊かな自然に囲まれた素晴らしい環境のもと、多様で魅力あふれる保育が実施されていること

に大変感銘を受けた。先ほどの動画にもあったように、こどもたちが心からの笑顔を多く見せてくれていると感じている。

皆様から伝えておきたい点やご意見などがあれば伺いたい。

○ 稲葉 盛栄 さん（大森保育園長）

当園の保護者アンケートや近年の調査から、子育てへの肯定的な感情が低下し、否定的な感情が増加する傾向が見られる。

多くの保護者が悩みを抱える現状を踏まえ、園の新たな取組として、当園職員及び子育て支援センターの職員、保護者がメンバーとなり、相談機関とも連携する仕組みであるケース検討会「いっしょにトーク」の検討を開始した。

しかしながら、「ケース検討会」という名称や枠組みが硬く参加しづらいとの意見や、より気軽に参加できるようにしてほしいとの要望があったため、保護者同士が自由に話し合える場の設定を盛り込むなど、現在は職員や保護者の意見を伺いながら見直しを進めている。

○ 知事

保護者の皆様が普段の悩みを気軽に話し合い、共有し合えるような場を目指している点や、本格運用前に保護者の意見を汲み取られたプロセス自体が非常に素晴らしい取組だと感じている。

一方で、「ケース検討会」という名称や枠組みが硬く、特別な配慮が必要なこともだけを対象としているような印象を与えてしまう懸念も感じている。現場の先生方から見て率直なご意見やご感想などはどうか。

○ 島田 亜紀子 さん（大森保育園 主任）

保護者に分かりやすい表現を工夫し、深刻な課題の有無にかかわらず、それぞれの状況に応じた柔軟な対応が可能であることを丁寧にお伝えしていきたい。

○ 赤川 理亜 さん（川西保育園長）

少人数ならではの丁寧な保育ができる良さもあるが、少子化に伴い保育職員も減少していく中、一人も取り残さず地域全体で子育てを支え続けていくことができるか不安を感じている。

○ 知事

少人数ならではの良さはあるものの限界もあると感じている。

都会と比較すると、本県の豊かな自然環境や恵まれた保育環境は大変贅沢なものであり、そうした価値をしっかりと発信していきたい。

人口減少対策において、年少人口の減少を下げ止めることを目指し、特に子育て世帯にターゲットを絞って親元の近くや故郷へ帰還してもらう取組に注力している。

大森町は横手市中心部や大仙市大曲への通勤圏であり、生活基盤が整った定住・回帰が十分可能な地域である。恵まれた環境や故郷で育つ素晴らしさを、地域からも積極的に発信していきたい。

○ 保護者（観覧者）

小学校の学力テスト等で上位に入るなど本県は教育環境に恵まれている一方、中学校や高校の年代での部活動や進学における選択肢の少なさが県外流出の一因になっていると感じている。

こどもが学びのために県外へ進学した際にも、将来「戻ってきたい」と思える魅力ある環境を

用意していただきたい。この地を「育てやすい環境＝教育の場」としてさらに充実させていくことが、若い世代の定住や子育てにつながると考えている。

○ 知事

人々の考え方が多様化する中、自分に合うものがなければ別の場所を選択するのは当然のことであり、まさに目指すべきは県内の「選択肢」の充実である。

企業誘致についても、従来は「とにかく雇用数を増やす」という手法であったが、現在は県外から人材を呼び戻せるような着眼点のもと、行政による支援のあり方を見直している。本県出身で都市部で働いている方が「その企業が秋田に進出するなら地元へ戻ろう」と思って採用されるような流れをつくっていきたいと考えている。

様々な手法で県内の選択肢を増やし、「これなら帰ってこよう」と思える流れをつくっていくので、ぜひ希望を持って子どもたちを育てていただきたい。

○ 葛岡 直子 さん（大森保育園 副主任）

今の若者が「親になりたい」「こどもを生みたい」と思っているのだろうかと考えることがある。

これから先、子どもたちが「親になりたい」「こどもが好き」「家族をつくりたい」と思えるような社会を望むとともに、保育士が活躍できる場もぜひ残してほしいと考えている。

○ 知事

重要なことは、「皆様一人ひとりが主体である」ということである。行政の責任も大きいですが、地域は政治や行政だけでつくるものではなく、地域の皆様がどれだけ地域を盛り上げ、子どもたちに明るい姿を見せていけるかが非常に重要だと感じている。

保育の現場の皆様は極めて重要なプレイヤーであるため、地域の子どもたちを育てる大切な仕事に誇りを持って、一緒に地域を盛り上げていただきたい。

○ 佐藤 和美 さん（川西保育園 副主任）

子育てをしていく中で自身の仕事や生活に不安を感じることもあるが、これまでの資格や経験を生かせる場の確保とともに、何よりも「働きやすい環境」と「子育てしやすい環境」を整えていただきたいと考えている。

○ 知事

年少人口の維持が課題解決の鍵であり、一度県外へ出た方が「秋田に戻ろう」と思えるよう取組を進めている。

子育て期を迎えた層にとって本県の豊かな環境は魅力的な選択肢であり、移住相談や登録者の多くを子育て世帯が占めている。

課題は、戻る場所が秋田市や旧横手市中心部などに偏ってしまう点である。可能な限り親元の近くの地域に戻ってこられる仕組みづくりを地域と一緒に進めていきたい。素晴らしい保育園や環境があるこの地域で、皆様と力を合わせて取り組んでいくので協力をお願いしたい。

○ 佐藤 純子 さん（川西保育園保護者会 副会長）

小学校の学習を通じ、こどもと一緒に地域を探検しながら地元の魅力を再発見している。子どもたちが将来「秋田は良いところだ」と胸を張って言えるような地域づくりを目指していきたい。

- 知事
 今秋から県民の県内周遊キャンペーンを開始しており、映画のロケ地巡りなども話題になっている。皆様に地域の良さを知り、発信していくことが大切だと考えている。
- 佐々木 信子 さん（子育て支援センター「たんぽぽ」職員）
 センターを利用する移住子育て世帯が地域の魅力的な場所を教えてくれることも多く、本県は素晴らしい魅力や環境がありながら情報発信が不器用でもったいないと感じている。
 また、自宅に閉じこもりがちな家庭や孤立しがちな家庭への支援に当たり、個人情報保護の観点から行政による情報提供を受けられずに苦慮している。
- 知事
 現在は個人が何万人もの人々に情報を届けられる時代であり、県としても専門家を招いた職員の研修等を通じ、効果的な発信ができる人材の育成に取り組んでいる。
 また、自宅に閉じこもりがちな方は日常的にスマートフォン等を活用しているケースが多いため、必要な支援情報が端末を通じて直接届くような工夫が重要である。
- 佐藤 勇蔵 さん（学童おおもり総括指導員）
 学童保育においては、こども同士のトラブルが保護者間のトラブルに発展した際の対応など、現場の指導員の負担が増加している。
 学校と連携しながら対応しているが、専門的なアドバイザーやコーディネーターの配置など、現場を支えるサポートがあると助かると考えている。
- 知事
 教育現場の負担が非常に大きくなっていることから、県教育委員会を通じて市町村へスクールサポーターを配置しているほか、補助員や部活動指導員の増員を図っている。
- 知事（感想）
 本日いただいた現場の意見や課題を今後の県政運営や施策に生かしていきたい。前例にとらわれず各種事業の見直しを進めており、一緒に力を合わせて地域と県全体を盛り上げていきたいと考えている。
 一緒に力を合わせて地域と秋田県全体を盛り上げていきたい。

5 会場の様子

